

青梅市健康増進計画推進会議（第4回）

会議要録

【開催日時】 平成26年9月12日（金） 午後1時30分～

【開催場所】 健康センター 1階相談・指導室

【出欠】 委員：8名、事務局：8名、傍聴者：0名、コンサル：2名

【配付資料】

- 1 平成25年度市の取組状況調査および課題のまとめ（資料1）
- 2 健康づくり・食育における実感等に関する健康課内簡易調書（資料2）
- 3 第3次青梅市健康増進計画（素案）（資料3）
- 4 参考資料 第3回青梅市健康増進計画推進会議録

【議事】

1 **開会**（健康課長による司会進行）

2 **あいさつ** 健康福祉部長による挨拶が行われた。

3 **委員自己紹介** 新しく就任した委員が自己紹介をした。

4 **議題**

（1）平成25年度市の取組状況調査および課題のまとめについて（資料1）

○事務局が資料1の説明を行った。

- 委員より、p2の6番について「運動施設のレベルアップと利用の推進に努める」とあるが、ハード面でのレベルアップと受け止めていいのかとの質問があった。
 - ・これに対し、事務局より「そうである」との回答があった。
- 委員より、p1の4番について、「食事バランスガイドの内容が難しい」とあるが、どのように実施したのか、何が難しく何ができなかったのかわからない、との質問があった。
 - ・これに対し、事務局より、バランスごま自体を簡単には説明しづらいとの回答があった。
 - ・これを受け、委員は、自分もバランスガイドをもとに説明しているが、そこまで難しいとは思っていないため、どのように取り組んでいるかを質問した次第であると述べた。
 - ・これに対し、事務局より、食事バランスガイドの説明のための教室というのではなく、例えば栄養の事が知りたいと飛び込みでご相談に来た方に対し、説明を行っているという状況であり、簡単な説明しかできていないと回答した。
 - ・これを受け、委員より、自分もバランスガイドの説明を中心にやっているわけではないが、チェックシートのようなかたちで今日食べたものを記入してもらうようなかたちであれば簡単にできると思う、本人に自覚させることを目的としたガイドとして使っていけばいいのでは、と意見を述べた。

- ・これに対し、事務局は、参考にさせていただきたいと述べ、付言して、バランスごま自体全く使っていないわけではなく、母親学級等で必要に応じて使っていると述べた。
- 委員より、p 2の身体活動の17番について、男性向け教室というのがあるが、現状では男性はとて少く肩身の狭い思いをしているという声があったので、男性向けの教室に力をいれてもらいたいとの要望があった。
- ・これに対し、事務局より、どのようなものが男性にニーズがあるのか研究して、また別の機会に委員にもご意見を伺いたいとの回答があった。
- 委員より、p 3の25番について、生後4ヵ月までの子供のいる家庭への全戸訪問とあるが、実際にはどのくらい達成されているのかとの質問があった。
- ・これに対し、事務局より、基本的には子ども家庭支援課が委託した、民生委員が全戸訪問しているが、留守や訪問拒否を含めると約9割ほど達成されているとの回答があった。
- 会長より、訪問拒否で会えなかった家庭に対してのフォローはどのようにしているのかとの質問があった。
- ・事務局より、4ヵ月までの子どもで、子ども家庭支援課が何回か訪問し会えなかった家庭は健康課で情報を引き継いでおり、4歳まで接触を試みるよう取組みを行っているとの回答があった。
- ・これを受け、会長より、それは全員であるのか、健康課に引き継いだ後に会えない場合はどのように対応しているのかとの質問があった。
- ・これに対し、事務局より、全員ではないが、子ども家庭支援課と連携を取り、児童相談所等とも連絡をするような流れになっているとの回答があった。
- また、補足として、事務局の乳幼児健診担当者より、訪問時にお顔を確認できなかった子どもについては、定期的に予防接種を受けているか、保育園・幼稚園に通っているかなどを関係機関に打診して回答をもらっていること、5月に調査した際には、確認できなかった子どもはならず、海外に行ってしまったというのが1件あったが、電話で声を聞いて確認したことが説明された。
- ・これを受け、会長は、複数の課で対応していると「どこかがやっているだろう」ということで漏れてしまうこともなきにしもあらずなので、よろしく願います、と述べた。
- 委員より、p 5の51番について、受診数を上げるとあるが目標としてはどのくらいをみているのかとの質問があった。
- ・これに対し、事務局より、特定健診は平成29年度までに60%を目標としており、25年度は48.7%であると回答があった。
- ・これを受け、委員より、目標値とはまだ開きがあるので、上げるような取組みが必要だと思うが、現在の取り組みのままで良いのかとの意見があった。
- ・これに対し、事務局より、市としては対象者全員への受診券の配布、無料での健診、ハガキにて行っている未受診者への通知を実施していると説明があり、届いているがなかなか足が向かないということもあるので今後はもう少し健診の推進をしていきたいと述

べられた。

- 委員より、自分の夫の会社で主婦健診を受けている方もいると思うので、正確な数字はどのようになるのか、との質問があった。
- ・これに対し、事務局は、他で受信された方について直接データを収集することはできないため、現状ではあくまでも健診を受けた方の申し出にもとづくやり方しかできていないが、そうした方については、健診結果をこちらに送付していただければ特定健診の受診に代えられる旨を市の広報などで知らせていると回答し、今後はそうしたデータも拾えるように考えていきたいと述べた。
- 会長より、受診率に関する市の地域差は把握しているかとの質問があった。
- ・これに対し、事務局より、地域差は把握していないが、今後は分析して地域ごとにアプローチしていきたいとの回答があった。

(2) 健康づくり・食育における実感等に関する健康課内簡易調書について（資料2）

- 事務局が資料2の説明を行った。
- 委員長が委員からの質疑を促したが、質問はなかった。

(3) 第3次青梅市健康増進計画（素案）の検討について（資料3）

- 事務局が資料3の説明を行った。
- コンサルが分析などについての説明を行った。
- 会長より、p21の20～60歳代の男性の肥満が10倍に増えているがこれは本当かとの確認があった。
- ・これに対し、事務局より、コンサルともう1度精査するとともに、10年前である2003年のデータでは、20～60歳の男性の肥満は21%、40～60歳の女性の肥満は9.6%であり、こちらの数字も思うところがあるので確認して、別途報告したいと回答した。
- 会長は、p28の基本視点の3番目について、一次予防（プライマリーヘルスケア）とあるが、一次予防ならばプライマリープリベーションであること、ヘルスケアというと保健医療なのでもう少し広い意味になるため「一次予防」の別称としてプライマリーヘルスケアという言葉は適切ではないことを指摘し、一次予防でプライマリープリベーションという言葉を使ったほうがよいのかについても疑問があるので単に「一次予防」という言葉でよいのではと意見を述べた。
- ・これに対し、事務局は指摘を受け入れた。
- 委員より、p12「③がん検診等の状況」について、5つのがん検診と骨密度、成人歯科検診、肝炎ウイルス検診とが一緒の表になっており見づらいので、がん検診だけの表がよいとの意見があった。
- ・これに対し、事務局より、表記の仕方を工夫したいとの回答があった。
- 委員より、p10では青梅市は生活習慣病による死因が多いとされつつも、その値は東京都

を下回っているが、もし p11 の標準化死亡比の比較対象を全国基準値から東京都のものに変えたならば青梅は更に高くなるのか、また、片方は都、片方は国の値を使っているがこのような比較の仕方は妥当なのか、との質問があった。

- ・これに対し、事務局より、前回と同じにすることで比較する際にわかりやすいと考えたが、意見を受けて検討するとの回答があった。

また、補足として青梅市での死亡者の多い病名を捉える狙いがあり全国平均の指標を使ったと聞いているが、東京都で統一するのであればそれで良いと考えているとの見解を示した。

- 委員より、目標値について、どの程度上げるか減らすかが明記されておらず曖昧な感じがしたので、数値化した方がよいと思うとの意見があった。
- ・これに対して、事務局より、他課が関わっている部分についてはなかなか数値目標を立てにくい部分もあるが、D評価であったものやこの5年間の計画の中で優先的に取り組むべきものについては、可能な範囲でやっていきたいと述べた。
- ・これを受け、会長より、他課との調整お願いしたいとの要望があった。
- ・それについて事務局より、担当課として調整は行うが、他課との調整が厳しい面もあるのでご理解いただきたいと述べた。
- 会長より、p11の「標準化死亡比」とは、違う地域の死亡率を比較する際、年齢構成の違いを調整して比較する方法の一つであるとの説明があり、そのうえで、同様の方法で東京都で出すことができるのであれば出していきたいと要望し、また、比較した結果青梅市が東京都よりも高い数値であるならば、年齢以外の色々な要因が関係しているということなので、それについての何らかの対策が反映された計画でなければならないのではないかと意見があった。
- 副会長より、胃がん検診について最近バリウム検診でなくても血液検査でピロリ菌抗体等を含めた二項目の検査で胃がんリスクが簡単にわかるようになり、青梅市の医師会は今年度から取組みを始めているが、今後の青梅市としては、ある程度の結果が出れば、助成をし、極的にやっていく考えがあるのかどうか聞きたいとの意見があった。
- ・これに対して、事務局は、予防・早期発見を通じて医療費削減をするということは、今後の大事な課題として認識しているとの見解を示し、意見を受け止め、今後の人間ドックのあり方にも関わるので、取組みとしては広い視点になると思うと述べた。

(4) 次回推進会議について

- ・事務局は意見用紙を配付し、今回の会議についてご意見がある方にはその旨をお送りいただき、結果はとりまとめて皆様に通知したいと述べた。

5 その他

今後の日程 第5回 10月20日(月)もしくは10月27日(月) 時間は後日連絡

6 閉会